

## 平成22年度第1回小牧市立図書館選書委員会会議録

1 開催日時 平成22年6月22日(火)  
午後3時～午後5時

2 開催場所 小牧市立図書館 1階 集会室

3 出席者 会長 大間知 千鶴子  
副会長 多田 昭子  
委員 木村 芳博  
〃 中川 裕子  
〃 百瀬 正昭  
〃 森 勝昭  
事務局 船橋館長  
山田主幹  
永井補佐  
佐藤係長  
林主査

4 議題 (1) 選書について  
(2) その他について

5 会議資料 選書資料

6 議事内容

(1) 選書について

選書資料1 『新アジア仏教史』について

【事務局】 購入可多数で購入とします。

選書資料2 『地図と絵画で読む聖書大百科』について

【事務局】 可が3、不可が2、保留が1ですので、ご協議をお願いします。

【委員】 類似の本があるにはあるが、範囲が狭く取り上げられている。

【委員】 背景になる絵とか地図は興味を引く。

【委員】 割と広く取り上げられている。

【委員】 創元社は、手堅い出版者。

【委員】 2009年に出版されているものがたくさんあるが、これとは違う気がする。

- 【委員】 最初可にしたが、非常に多くの関連図書が所蔵されており、この本は、聖書の歴史上のポイントのトピックはよく扱われているが、全体として日本人が見るほどのものかなと疑問に感じ、最終的に値段も含めて購入は不可ということにした。
- 【委員】 今言われた観点から私も保留にした。蔵書が多い。宗教関係の本とは視点が違う。この本は地図と絵画だけに視点をおいて集めただけで、果たしてどれだけ読む人の胸を打つかというとそれほどのことではない。ただ売り出すために地図があり絵画があるという観点から聖書を取り出してみただけで、一つの視点からは面白いと思うが蔵書もたくさんあるし、小牧の図書館としてはどちらでもよい。
- 【委員】 類書は多いが、聖書の翻訳が多い。今の意見とは反対で絵と地図に興味を持った。現在も紛争のある地域であり、その原点がわかるような気がする。美術館へ行くと西洋絵画は宗教に関連した絵が多かった。それに関連して絵が宗教を離れて美術的要素も想像させるし、それに地図があるところなんだと、あれば見たくなると思った。仏教の本には偏見をもったが、こちらの本は宗教と言うより美術的要素と歴史的背景にひかれた。
- 【委員】 仏教史を遡ると、最終的にこういう絵画の価値判断にたどりつく。
- 【委員】 根拠はないが興味をもった。
- 【委員】 推薦者が渡辺和子さん、阿刀田高さん、日野原重明さんとかですね。
- 【委員】 西洋絵画はすごい。仏教の方は、どうしても紙とか木に書くから、国宝だといわれても真っ黒。テレビで見ると光を当ててきれいだがいんパクトがないから残っていかない。絵画は何処にいてもあるし興味のある人はあるのでは。
- 【委員】 美術の本と関連してますね。
- 【委員】 所蔵本は、翻訳の聖書ばかりで手にとって見たいものがない。買しましょう。
- 【委員】 今はインターネットでなんでも見えるが、本で見られるということはあるがたい。
- 【委員】 仏教は、どちらかと言うと仏像とか彫刻とかが芸術的で、絵画というのはピンとこない。
- 【委員】 仏画は、あまり面白くない。
- 【委員】 仏画は、パターンが決まっている。
- 【委員】 聖書は物語性がある。
- 【委員】 聖書はドラマティック。
- 【事務局】 皆様のご意見は、購入のほうに傾いているようですので購入と

します。

選書資料3 『日本現代気象名著選集 全11巻』について

【事務局】 購入可多数で購入とします。

選書資料4 『日本農民建築 全9巻』について

【事務局】 可が3で、保留が3ですので、ご協議をお願いします。

【委員】 建築家のもの。

【委員】 迷って保留にした。

【委員】 昔の写真があつて貴重だと言っているが、農民の建築での資料はないが「民家」ではある。奈良時代から昭和の終わりまではこういう民家はあつたと思う。あえて購入する理由はないと思って保留にした。あればあつたでいい。歴史的なものが見れば価値はある。

【委員】 向井潤吉（画家）がたくさん描いている。

【委員】 私は保留にしましたが可にします。

【事務局】 可が多数になりましたので購入とします。

選書資料5 『新派名優喜多村緑郎日記 全3巻』について

【事務局】 可が2、不可が1、保留が3ですので、ご協議をお願いします。

【委員】 パンフレットの表紙が良い。内容は良くはわからないが、演劇は日本の芸術の中では重きをなしている事柄だと思うので、あつてしかるべき。

【委員】 当時としたらすごい人気。新派は古いみたいだが演歌でも不如帰や金色夜叉・滝の白糸が取り上げられている。内容を見たら時代の背景がわかる。文学者の久保田万太郎とか20人位挙がついて交友関係が広い。二・二六事件のことが書いてあつたりして、歴史的に面白いしあまり難しくないのもあつてもいいのでは。

【委員】 全集の中に日記は必ず入っている。歴史資料として大事。

【委員】 交友関係が広いので、その時代の雰囲気とかがわかる。

【委員】 交友が広いというところがポイント。どの程度の交友の深みがあつたかがわからない。

【委員】 いずれ日記が公表されると思って大事なところは書いてないかもしれない。本当のところは。

【委員】 新派というのは何処から来たのか。

【委員】 「オッペケペ」とかがあつて、政治色が濃いからそういうものを抜きにしてお芝居だけでしましょうっていうのが始まりと書いてある。

- 【委員】 確かに政治色はない。
- 【委員】 面白いと思う。
- 【委員】 そこまで関心を持つ人は、かなり文化的センスがある人。
- 【委員】 そういうセンスはないが。
- 【委員】 新派はすたれて興味は持たれないかなと思うので、本で調べようという人はいないかなと。
- 【委員】 調べるというより、その時代の雰囲気味わうもの。
- 【委員】 新派自体に興味を持たれないのでは。
- 【委員】 それは何でもそう流れていくから。
- 【委員】 こういうものは個人で買えないので、図書館で揃えておくべき。小牧の図書館へ行けばあるということが大事。こういうものをひとつずつ入れることによって、市の財産になり小牧市民の教養を高めることになる。
- 【委員】 どうしても、なければいけないというものでもない。
- 【委員】 我々新派の専門家でもないので、個人の人生経験から価値判断するよりしかたない。
- 【委員】 新派や新国劇は死語に近い。すたれていくから図書館に置いておくべきと考えを変えた。
- 【委員】 その分野では貴重なもの。値段も高くない。
- 【委員】 二・二六事件とか近代史のわかっているようでわかっていない部分が日記で生々しく書かれている部分は面白いと思う。
- 【委員】 想像して書いたものではないから。
- 【委員】 新派云々ではなくて、その時代の背景が見えてくるところは面白い。
- 【委員】 新派がわからなかったのが不可にしたが、そういう意味でとらえればあってもいいと思う。
- 【委員】 新派を知らない人でも、金色夜叉は知っている。
- 【委員】 今の人は知らないから演劇史としては残る。
- 【委員】 人間味を感じる。
- 【委員】 パンフレットと現物が違うことがある。
- 【委員】 編者の紅野謙介は「読書人」とかによく書いている人。
- 【委員】 現物があると参考になる。
- 【委員】 推薦だけは、しておきます。
- 【事務局】 事務局判断とさせていただきます。

選書資料6 『伊藤若冲動植綵絵』について

- 【事務局】 購入可多数で購入とします。

選書資料7 『最新樹木根系図説』について

【事務局】 購入可多数で購入とします。

選書資料8 『幕末維新大人名事典 上・下巻』について

【事務局】 購入可多数で購入とします。

選書資料9 『災害文献大事典』について

【事務局】 可が2、不可が2、保留2ですので、ご協議をお願いします。

【委員】 時節柄大事な本。

【委員】 可にした。そこに書いてあるが現代に生きるということは、過去にいつ何処で何が起きたかということは明確になっているが、こういう文献が増えれば市民にとっては良い。値段も高くない。

【委員】 参考文献なので、ひとつの件について細かく書いてあるわけではない。

【委員】 大事だなとは思った。今後のさまざまな災害に備えての非常に参考になる本と見ていたが文献紹介なんですね。文献の文献なので、これを見て災害の様子がわかるというわけではなくて、ここから次の資料に移らないといけない。とことん調べて文献にたどりつく人はいいが、ここで何か得たいと思う人には遠すぎる本という気がした。

【委員】 手引書ですね。値段的には安い。

【委員】 この本に掲載されたデータが、全て図書館にあるわけではないんですよ。

【委員】 項目によってはある。たとえば伊勢湾台風というならあるんでしょうけど全部の資料があるわけではない。災害図書館というものが日本にあるかもしれない。貴重な手引書になると書いてある

【委員】 所蔵資料に平成災害誌事典平成16年から平成20年と書いてある。この本は何年から何年までですか。

【委員】 これは戦後から現代まで。

【委員】 2009年3月のは本当に最近のですね。平成16年から20年なのでごく最近のもの。

【委員】 昭和災害史年表事典は昭和21年からずっと続いている。

【委員】 年表ですね。

【委員】 災害内容をまとめてあるのかわからない。

【委員】 伊勢湾台風でみると、伊勢湾台風気象概報は名古屋地方気象台から出しているし、伊勢湾台風災害画報は、三重県から出しているし、

伊勢湾台風災害記録は名古屋鉄道管理局が出している。こういうのを見るといろいろある。鉄道は鉄道で被害を受けている。それもひとつとしてわかる。あってもいい。可にします。

【委員】 私もあってもいい気がしてきた。保留から可にします。

【事務局】 2人可が増になりましたので購入します。

#### 選書資料10 『金融工学ハンドブック』について

【事務局】 購入不可多数で購入しません。

#### 選書資料11 『たばこの事典』について

【委員】 可が2、不可が2、保留が2ですので、ご協議をお願いします。

【委員】 今はたばこの受難時代。この本は面白い。

【委員】 歴史的な資料で人類にどれだけの影響を与えてきて、いつ頃発生したかということならともかく、今の時代の流れからいうと、あえて買う必要はないと思う。

【委員】 もっと広く風俗の移り変わりとか趣味や嗜好の移り変わりとかの中で、たばこはどうなってきたかと捉えるならいいが、たばこ自身はいらないような気がする。

【委員】 ほかのカテゴリーから調べられる。

【委員】 日本では、いつからたばこが吸われているのですか。

【委員】 江戸時代から。原点は、コロンブスがアメリカ大陸を発見した頃。

【委員】 たばこの木はもともと日本にはなかった。

【委員】 そうすると、これで勉強する価値はあるのか。

【委員】 また復活するかもしれない。

【委員】 団伊玖磨の「パイプのけむり」という本があったが、そんな題もはやりませんね。いい題だと思ったんですけど。

【委員】 団伊玖磨はパイプを吸ってみえましたからね。

【委員】 やっぱり死語ですね

【委員】 たばこをひとつ取り上げて、いつできたとか何処から来たとかが、図書館でわからないで困るということならあってもいい。

【委員】 そんなことはない、調べればいい。

【委員】 インターネットでなくても、百科辞典でなくても嗜好品の分野のひとつであるから調べられる。

【事務局】 たばこについても嗜好品として調べれば、いろいろ出てくる。

【委員】 ひとつの文化みたいなもの。

【委員】 保留だが、あえて言えばこういうものは必要ない。何ででも調べられる。どちらでもよい不可に近い保留。嗜好の問題だから一概に

限定できない。

【委員】 嗜好とは別の問題。

【委員】 可の人の意見は。

【委員】 わたしは可です。自分が吸うものですから。吸っている者が、そのものをよく知っていないところが結構ある。

【委員】 禁煙のきっかけになる。

【委員】 こういうもの自体がなくなっていく時代が来る。そういう貴重なものが残されていかないとしたらあってもいい。自分の吸っているものとは別物としてこういう事があるのかと改めて見ていた。

【委員】 不可にしたが、これだけ話が出れば、値段も安いのでどちらでもいい。可でもいい。

【委員】 公の図書館に置かなくてはいけないというものでもない。

【事務局】 事務局判断とさせていただきます。